

平成 2 0 年度
第 5 回公民館運営審議会議事録

平成 2 1 年 1 月 9 日開催

平成 2 1 年 3 月 1 3 日承認

浦安市中央公民館

平成20年度第5回 公民館運営審議会会議

日 時 平成21年1月9日(金)午後3時～午後5時

場 所 中央公民館3階第3会議室

次 第

開会

1. 委員長挨拶
2. 教育委員会挨拶

協議

1. 報告事項
 - (1) 前回定例会会議内容の確認
 - (2) 公民館主催事業参加状況報告(平成21年11月～12月)
 - (3) 生涯学習課報告事項
2. 審議事項
 - (1) 公民館主催事(1～3月)開催計画について
 - (2) 提言「子どもたちを地域で育てていくための公民館の役割について」

その他

- (1) 次回定例会議の予定
平成21年3月13日(金)午後3時開会、浦安市中央公民館

[開 会]

1. 委員長挨拶
2. 教育委員会挨拶（生涯学習部長）

[協 議]

1. 報告事項

(1) 前回会議内容の確認

原案どおり承認。

(2) 公民館主催事業参加状況報告（平成20年11月～12月）

中央公民館長、堀江公民館長、富岡公民館長、美浜公民館長、当代島公民館長及び吉日の出公民館長から資料に基づき説明。

(3) 生涯学習課報告

（生涯学習課課長）

1点目、図面により高洲地区公民館複合施設について説明。

高洲地区公民館複合施設につきましては、昨年12月議会に機械設備工事3つの契約関係について、上程し、承認を得て1月7日に起工式を行った。

工期としては、来年2月までの14ヵ月で、平成22年の春にオープンを予定している。

この施設では、南北に施設の出入りをとっており、1階に複合施設、屋上には、屋上菜園、屋上庭園を配置している。

この施設の特徴的な部分は、地下の駐車場の下が空洞で、雨水をためておくピットになっており、ここでためられた雨水をポンプで吸い上げ、屋上部分の庭園への散水、またはトイレ等に利用する施設になっている。

（生涯学習課主幹）

2点目、社会教育関係の登録・認定について説明。

11月に皆様にお示ししたが、文章的に見直した部分がある。

見直し箇所は、第5条が登録有効期間のところの文章見直しと、11条の個人情報の部分の削除になる。

前回委員より質問があった、社会教育委員会で指摘があった事項について。

社会教育委員会の討議内容については、認定制度から登録制度に移行することは良

い、また、有効期限の2年についても妥当であるということ。及び登録人数は現状のとおり10人、公民館利用料の減免については、50%の減免、並びに教育委員会が認める団体については、免責とする等であった。

つづいて、社会教育委員会の指摘事項について。

指摘事項は、第2条、4,5,6の部分で、内容が厳しいのではないかと指摘があった。

なお、公民館などを利用する社会教育認定団体については、趣味的なものもあるが、社会教育を推進していると考えている。

それから、第3条の登録の申請では、予算書及び事業計画書等様式を定めていたが、各団体における総会資料等で内容が確認できる物があればそれ等を掲示することによりということにし、様式は削除した。

もう1点として、第10条の登録団体支援ということで補助金について、並列して記載してありましたが、どの団体でも補助金が交付されるように、受け取られるので、補助金につきましては、教育委員会が特別理由があると判断した団体のみ補助金を交付すると変更した。

2. 審議事項

(1) 公民館主催事業(1~3月)開催計画について

中央公民館長、堀江公民館長、富岡公民館長、美浜公民館長、当代島公民館長及び日の出公民館長から資料に基づき説明。

(委員長)

一通りの説明がありましたが、感想等を聞かせていただきたいと思う。

今年初めて行った事業はあったのか。

(堀江公民館館長)

堀江公民館のボランティア講座は初めて実施する。

(委員長)

「体験しよう！ボランティアのすすめ」ですね。

(富岡公民館館長)

富岡公民館の、子ども俳句大会が今年はじめて行われた。

(委員長)

富岡小学校の子ども達も、俳句づくりに猛烈に取り組んだ。子ども達は、興味があって、関心が高く大分反応があったようだ。

(当代島公民館館長)

当代島では、退職した校長先生をお呼びして、試行的に北部小学校と浦安小学校の3年生と4年生を対象に、「みんなで楽しく学ぶ土曜教室」を実施した。先生方もつるかめ算とか昔の遊びなど趣向を凝らしていただいた。

この事業に関しましては、生涯学習部長、教育長とご相談しながら導入した事業で、今後、社会教育と学校教育との橋渡しになる事業として位置づけたいと思う。

(委員)

浦安市も結構外国人が多いのですが、公民館の講座への参加はまだないのか。

(日の出公民館館長)

全然しゃべれない人も来る。

(委員)

うちの自治会でも、お祭りなどいろんな行事に参加している。

(2) 提言「子どもたちを地域で育てていくための公民館の役割について」

(委員長)

時間になりましたので、審議事項、提言「子どもたちを地域で育てていくための公民館の役割」について、話を進めていきますが、本日、ご意見をいただいた内容について、2月の中旬までに事務局でまとめて、3月13日に微調整をおこなって行きたいと思う。

お手元の資料で「今までの会議の中で出されたご意見の要点」にある内容について、提言をしていく上で、もう少し補強または、取り扱ったほうがいい視点などお気づきのところがあったら、ご意見を伺っていきたい。

(委員)

資料を読みまして、ポイントとしては3つあるのではないかと思います。

1つは、公民館と小学校の連絡会をどういう連絡会にしていくのか、もう1つはネットワークづくりについて、継続的にやっていくのは難しいことからここにポイントをおくべきではないかと考えている。

それから、もう1つは、公民館の事業について学校がどの程度認知しているのかという部分で、公民館事業をいかに地域または学校、生徒にPRしていけばよいかこのあたりをしっかり決めていけばよいと思う。

それともう1つ市役所の中の縦ではなくて、横で連携して、持っている資源を投入していく必要があると思う。

(委員長)

行政のあり方ですね。

(委員)

資料の中で人材ということがでてきておりますが、人材を発掘する際、人材バンクを活用されているのか確認を取っていく必要があると思う。

(委員長)

そうですね。

人材はたくさんいるのですが、何を持って人材にするかというのが難しく、ここで言う人材は公民館のサークル活動をとおして、例えば陶芸、切り絵、絵手紙などのサークルに気楽にお願いできるとか、そのぐらいの人材でいいのではないかと考えている。

実際には、そういう活用は幼稚園などで行われており、碁並べなどもやっているようだ。

結構人材バンクというと、素晴らしい人がいっぱい並びすぎかなという思いが若干している。一方で、人材バンクに登録されている人をもっともっと活用しなければいけないと思っている。

例えば、どういう人をお呼びしやすいかということ、昔の遊びなどは、あのおじいちゃん、おばあちゃんというようなかなり身近な方がお願いしやすい部分もたくさんあると思う。

(委員)

今の事例に関してですが、もっと細かく公民館ごとにリタイアした人などを把握する必要があると思う。

(委員長)

人数を指定するかどうかは別としても、そういう人達を公民館が把握してくださいということだと思う。

(委員)

それに関連していることですが、以前は婦人の会がよく色々な学校で、昔の遊びなど行っていた。

今は、小中学校で郷土料理を作ったり、手芸を教えたりしているようだ。私のところの小学校からは、よく盆踊を教えてくださいと依頼がある。学校によってそのようなことを取り入れている所とそうでないところがあるのでしょうか。

(委員長)

学校によっては、福祉やキャリア教育など特徴がある。

ニーズを正しく知るといのは大事な事だが、互いの学校同士の情報を取り合うことも大事だと思う。

学校の特色や、互いにこんなことをやっていますよという情報交換はしているが、さらに、こんなことができますよというようなものが必要である。

(生涯学習部長)

社会教育認定団体に学校に協力出来ますか、または協力していますかというようなアンケートを取りまして、これから協力しようとしている団体のいくつかに声をかけ、団体の活動を講座にし団体及び子どもたち双方に体験してもらうという入り口となる事業を実施することになっている。

各サークルが、積極的に協力し、情報提供の場となるものと思う。

(委員)

今、部長が言われたように活動に協力していただける団体もたくさんあるが、当代島公民館で行われている消防音楽隊のコンサートのように、個人的な知り合いがあっつながっていく部分もある。

学校からそういう発想をする教師が、個人的なつながりがあるかどうか、そういう物があると引っぱりやすいしお願いしやすいと思う。教師によってその差がある。そこで必要になってくるのが、ネットワークとかコーディネーターの部分だと思う。

ある教科書の題材として載ったことで、今、日本全国の多くの1年生はあさがおを育てているが、別にあさがおでなくてもよいと思っている。この地域はこういう植物があるからそれを子どもたちと一緒に地域のものとして育てて鑑賞して、観察記録を作ったり、何かやりたいという発想をすると発想した先生は、ものすごく膨大な量の仕事をこなさなければならなくなる。そこで地域にそのような指導・協力してくれる人材の把握などが必要となる。

学校が今何を必要としているか、これも教育委員会で集約できると思う。それを生涯学習の方とどうつないでいくかというところで、ネットワークや連絡会が重要になる。個人的つながりではなく、有機的に動いていかなければならない。

(委員)

公民館の色々なサークルまたは実施事業はどんな人が関わっているのかは公民館サイドで人材の把握は出来ると思う。

その把握できた人材を地域の小中学校に送り込んでいくというように、点としての活動ではその先生がいなくなればもうそこで活動は途切れてしまう状況が多いと思う。

なんとか地域と公民館との連絡、ネットワークというものをしっかりした流れを作ればある程度解決できる方向性があるのではないかと思う。

(委員長)

気軽にお願ひできる、ちょっと垣根がひくいほうがよいのではないかと思う。

各公民館ごとの、そういう情報提供の話があったが、それが生命線かなと思う。

(委員)

公民館というのは、全市を対象に考えず公民館の地区の学校のことを考えればよいと思う。

(委員長)

ここで提言の内容をざっと整理していこうと思う。

まず、どんな子どもに育て欲しいのかということがあると思う。今求められている子ども達、明るいか、かがやいているとかいろいろあると思う。

それから公民館は、場の提供をしていると思う。生きる力を持っている子どもに育てるため子どもを意識した工夫ある講座を実施して欲しいと思う。

それから、サークルを育成し、人材を輩出して欲しい、そんなに特別な人材でなくても、まちの先生をつくってほしい。そして要請したら紹介してほしい。

地域をつなぐ役割、触媒としての役割は公民館が担ってもらいたい。連絡会などを設け、直接的に小学校、中学校と連携し、つなげてくれるということもあっていいと思う。

連携ということでは、行政間の連携も必要になってくる。生涯学習、学校関係、子どもに関する福祉部署などの連携により、いろいろな課題解決に向けスムーズな動きが生まれると思う。

それから、この「ルネサンス」などを活用し、学校にも1部ではなく各学年主任の元に届くくらいの数をいただくと、情報量も増えると思う。

そのような事をまとめていきますと、公民館が当たり前に行っていたことなのですが、それプラスちょっと視点を地域づくりにどうやって貢献することが出来るかを考えると提言の形になるのではないかと考える。

これだけでは足りないところを補足していただければと思う。

(委員)

これだけ大きな事業を展開していく場合、その拠点の考え方を、整理をしていった方が、今後、形あるものになっていくのではないかと考える。

(委員長)

特別に、子どもを支援していくための、例えば学校との窓口を作ってもらおうとか、そういう事でしょうか。

窓口を作り、そこに電話すると、それぞれ情報がもらえるとかですね。

(委員)

学校の先生が公民館活動をどのくらいご存知で、利用されているのか。学校の先生が余り公民館に関心がなければ、公民館が行っている事業、子どもたちのニーズその辺は

どのように接点ができるのかと思う。

(委員長)

私の知っている範囲内でいいますと、文化祭だとか声のかかる部分は、年間の計画を作っている。

その他は、公民館から随時呼びかけがあるものもある。公民館は実は土日もやっているし、夜もやっている。学校の先生は何かお願いすることがあればぜったいに反応すると思うし、ただ知らないだけだと思う。

とりあえず今までの意見をまとめて、たたき台を作りたいと思う。

何回かにわたって話し合いを行ってきましたが、まだまだ完全ではなく恐縮ですが、本日は終了いたします。

その他

(1) 次回定例会の予定

平成21年3月13日(金)午後3時開会 浦安市中央公民館

(閉 会)